

令和3年度使用中学校用教科用図書（「教科名 数学」）の採択結果等について

広島大学附属三原中学校

種目	発行者	採択理由
数学	啓林館	<p>○基礎基本の定着に関わって</p> <p>新しい学びの学習が、これまでに学んだことに基づいて、考えを広げたり、予想していく中で進めることができるように構成されている。また、練習問題において、問題の意図や、その問題ができない場合にはどの内容の理解が不足しているのかを示す工夫がされている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む工夫に関わって</p> <p>正しい答えを導くことに加えて、新たな疑問や別の考え方はないかと発展的に考えるための工夫がなされている。</p> <p>○内容の構成・配列に関わって</p> <p>主体的に学習を行う上で、学校での学習のみならず、家庭での学習を含めた両方の学習を考慮する必要がある。そのため、教科書を「みんなで学ぼう編」「自分から学ぼう編」の2部構成にすることで、両方の学習を考慮した構成になっている。また、内容の構成・配列は、中学1年生から3年生までの内容のつながりを意識した工夫がされている。</p> <p>○内容の表現・表記に関わって</p> <p>教材内容の理解を助ける表や図が添えてあることで、内容の理解を確認しながら学習を進める工夫がなされている。算数で学んだことは「算数」と表記され、また、以前に学習した内容については、どの学年で学んだかを表記している。そのため、これまでの学習で学んだ用語や定義の違いを比較する活動や、共通点や差異を捉えて統合的に考える活動が行える工夫がされている。</p> <p>○言語活動の充実に関わって</p> <p>学習の扉絵に必ず「話しあおう」の言語活動の記述がなされている。また、自分の考えを他者に伝える場面として、「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」を設定し、対話的に学習が進めていける工夫がされている。</p> <p>○本校の研究に関わって</p> <p>身のまわりで数学が活用されている場面の紹介や、問題を発見し、数学を使って解決する場面が多くある。そのため、本校が進める教育研究で求められる、教科を越えて横断的に活用する学びの実現に寄与するものである。</p>

